あますなく拓きゆく道 昭

和十七年大 東 亜 戦 争

天雲の向伏す ますなく拓きゆ 極 ス Ź 道が

地の涯ゆ、 記もち、 のごと湧きたた 我 等 り ひ 征かむ。 御楯だる の 族ぎ t:

源なもと 泉

大さ記と

天津日は 秀る麗は 南方圏の洋路遙けくみんなみ うみぢはろ)き創成に 0

重く負ふに務めして 生命たぎちむ

血潮流さむ

誇らかに諸声に

どよめきぬ祖

霊が

の行き

六合に頸く漲ぎり くれなるも 燃ゆる

神えい

海図に夢む 抒情清か、 じょじゃうさゃ

の宇宙蝕変満 こつも

厳ジャ

か

の時の流れに

欣ご

求《

十 億 億 東ら 亜ぁ 斯^かく せずばやまぬ宿命と の健剛を禱みて、たけまの

高光り剣を植ゑてたかひか けん う 今ぞ時、 轟き 赴 いま とき とどろ おもむ 悠久の天韶琴いやはてあめみのりごと

きぬ

の空、

の魂にぞ生き

国に登る 熱ななるだった。 の幸星 り歩みゆくなり もて仰がなむ

遷^うるべ 荒魂ま

へく遷る亜細で

亜ぁむ

の

(に生れし

ゕ

るがま

V

揺ぎなく、鍛へして 胸臆朗ら、身を透けて佇つことほが、みっと

Ŧi.

眸^まみ 帰るな がる **6き発程**い 3我等若人 起た

皇う国こく 叫び和す新潮の声 諸共に雄叫びすれば Iの 道 か、白鳥[®] に挺身まん

溢れつつ、 たどり得られ 日に若き、 ここぞ茲、 <u>し</u> 道

恵い

の感喜 迪t 迪t 過の児よ

ť

いかで忘れむ

真こ実と 仰ぎ見る銀漢のほとり
めお み ぎんが 継 ぎて行かなむ 八もて、 弥生ひに ほの認めけ

切替 辰 哉 君 作 歌 Ш

池 田 政 晴 君 作

匹

復円光らん 新たら 鮮^ぁざゃ 新たら けき翳りの中に き力よ躍れ

しき叫よ挙がれ

先駆に埋め *** Ĺ